

特集号

発行 日本女子テニス連盟神奈川支部

事務局広報

鈴木 幸美

神奈川県支部15周年のあゆみ

事務局

北原 洋子



- 司会者 溝口美知子 (鎌倉ローン)
 出席者 武石 文江 (名誉会員・鎌倉ローン)
 近藤たま子 (鎌倉ローン)
 大塚 節子 (鎌倉宮カントリー)
 間宮 千里 (湘南ローン)
 白石 節子 (柿の木台グリーン)
 飯尾 尚子 (湘南グリーン)
 伊波 昭子 (横浜ローン)
 草生示恵子 (夢見ヶ崎ローン)
 桑原 宏子 (湘南グリーン)
 天野佐智子 (湘南ローン)
 永井 順子 (横浜スポーツマン)
 坪井能布子 (高麗山)
 新田マサミ (カトレア)

古都鎌倉の趣をそのまま残し川のせせらぎのととも似合うたたずまい料亭青砥にて神奈川県女子テニス連盟の15年間の歩みを振り返って、役員として御尽力下さった方々のお話を会員の皆様と一緒に楽しく聞かせていただきました。数々のエピソードやご苦勞を乗り越えて15名からの出発が2300人の会員数に達した過程をお知らせ致します。

15周年式典では各県より多数の方々がお忙しい中、お祝いに駆けつけてくださり、会員一同感謝しております。

司会 今年は日本女子テニス連盟神奈川県支部が結成されて15年になりますので、歴史をさかのぼり、神奈川県支部が発足する事になったいきさつをお話し下さい。

武石 東京では、昭和43年1月に発足しておりました。神奈川では、昭和44年4月、15名で発足しました。テニス協会に入りたいと申し出ましたら、神奈川で支部を作るよという事ではじめました。名称も女子庭球連盟という名称は立派すぎて駄目、神奈川県女子テニスクラブ、なら良いという事になり、()して女子庭球連盟と入れていただく様お願いしました。

司会 支部の会員が集まり規約などを作られたと思いますが、どんな様子でしたか。

近藤 鎌倉ローンの人達を中心に15名でスタートし、2～3年後に鎌倉カントリーの方々に参加したという形です。武石さんが支部長で渉外、私が副支部長で会計と庶務を担当しました。

昭和47年6月に第1回女子庭球連盟神奈川県支部トーナメントが行なわれましたが、ドローも手書きで、会計報告も会員の前で読み上げるだけという小さな集まりでした。会員は49名で当時入会金 100円、会費 500円で運営しておりました。

司会 練習会を始められたそうですが。

武石 第1回練習会を鎌倉ローンで安部先生をお迎えして行ない、2回目は湘南の市営コートで山岸二郎さんをお願いしてやりましたが、だんだん女子を中心にしてやりましょうという事になり、第3回目は井上早苗さん、宮城黎子さんをお迎えして行ないました。名プレイヤーのテニスを初めて見る会員が多く、大変感激しました。昭和47年頃から、テニスブームの始まりで会員が、どんどん増えてきました。

司会 親睦会があったそうですが。

間宮 昭和50年4月第1回親睦会を湘南ローン

テニスクラブで、13クラブ、80名、51年4月湘南ローンで、23クラブ150名、53年スポーツマンクラブで、200名、この時は飯田藍さん、野村貴洋子さん達をお招きしました。54年には大磯プリンスホテルで200余名が参加しました。会費1,500円で、コートフィー、食事、お茶菓子ボール代等を賄いました。人数の少なかった時は十分親睦会の意味がありましたが、人数のふくれ上がり問題になりました。三つのブロックに分けられた今も親睦会は同じ様な形で続けられています。

司会 支部トーナメントも初めの頃は新人戦と呼ばれていましたが、その様子は。

近藤 正式なトーナメントとして単複、年2回行なわれていましたが、春にダブルス、秋にシングルスと定着してきました。初めは女子連の会員であれば出場できましたが、参加者の層も厚くなってきましたので資格をうたわれるようになってきました。優勝者のみが卒業という形をとりました。

司会 40会についてお聞かせ下さい。

大塚 湘南ローン、鎌倉カントリーを中心に、昭和47年から55年迄行なわれました。40才以上の会員が対象です。40会を始めようという機運があったのは、親睦会の人数が多くなって、東京支部との交流の場として人数をしばりこんだ会を作る必要があったのです。40会も年を経るにつれて人数が増え、現在は45会に成長して(年令を5才くり上げて)海の見える鎌倉シーサイドで定着しております。

司会 現在の45会はどうなんでしょうか。

伊波 45会も280名の参加者を迎え、コート数の多いクラブの御協力をお願いするという状態になりました。(年1回、親睦会を行なっています。)

司会 千葉対抗戦についてお願いします。

大塚 関東地区で本部から独立したのは、東京、神奈川、千葉の順番でした。千葉から、「親睦試合はいかが?」と申し出があって始まりました最初は圧倒的に勝っていましたが、機会均等ということで(一度出た人はやめ、沢山の会員に出いただくように)段々勝ったり負けたりする様になりました。

草生 昨年までは対千葉戦ということで、1年おきに行ったり来たりしていましたが、千葉は関東の各県と独自に対抗戦を幾つも行なっているので、スケジュールもとりにくくなってきま

した。関東各支部との話し合いの結果、東京、千葉、埼玉、茨城、神奈川で関東5都県対抗というものが出来上がり、今年はず初の試みで準備も十分できなかったのが神奈川支部役員でチームを作り参加しました。ゆくゆくは、栃木、群馬、山梨も加わり、1都7県対抗という形に発展していくのではないかと思います。

司会 昭和58年女子庭球連盟は日本女子庭球連盟として正式に認められました。関東庭球連盟と並ぶ日本庭球連盟直属の組織として大きな団体として認められました。

では次に朝日レディースについてお聞かせ下さい。

大塚 朝日新聞創刊100年を記念して始められました。会員の団結のためにも意義のあるものだと思います。第1回は3位、第2回から3連勝して大きなカップをいただきました。第5回3位、第6回の今年は4度目の優勝という輝かしい成績を納めています。はじめの頃はスポンサーがよくて恵まれていましたが、4回目からスポンサーがなくなって苦心しました。代表も一部自己負担、会計も赤字になったりで、県の協力で援助していただいたりしましたが、5回からエントリーフィーを上げて何とかやりくりしました。今年からは朝日生命のスポンサーを得て名称も朝日レディーステニス大会となり場所は朝日生命の久我山コート、クレイコートになりました。

司会 最近の朝日レディースの様子をお話し下さい。

草生 第5回から予選会場を3つに分け、本牧コート、桃浜コート、横山コートで行なっています。この予選で64組を選び出し本戦を行なうようになりました。今年449組のエントリーがあり参加者も年々増え、7組に1組が本戦入りできる割合で、代表になるのも非常に厳しく前から云われている様に全国一の激戦地となっております。



司会 次に54年に3ブロックに分かれましたが、そのいきさつをお願いします。

近藤 会員数が増え続き、鎌倉だけでは事務処理が大変になり、東京もブロックに分けておりましたので神奈川も3ブロックに分けました。

ブロック	地区	当時の会員数	現在の会員数
A	横浜	193名	657名
B	横須賀線	199名	674名
C	東海道線	234名	689名

計2020名となっております。ブロックに分かれる時に、県支部から各ブロックに10万円ずつ持参金をお渡しして、あとは独立採算制をとっています。1000円の会費のうち、本部へ300円、県支部へ300円、各ブロックに400円という形で納入する事になっております。

桑原 会費は入会金1000円、会費1000円です。会員の増加で会費も上げないでやりくりしております。

司会 フェデレーションカップについてお聞きしたいのですが。

伊波 43年に女子連がスタートした時に、宮城黎子さん、畠中君代さんが将来絶対に日本で、フェデレーションを開催したいという夢が実現して56年11月、東急多摩川園ラケットクラブで行なわれました。

……フェデレーションカップ日本開催に際しては、日本の女子のテニスレベルを上げる為に会員の寄付や大会運営のお手伝い等の協力をしました。組織の力も増し、朝日レディースなど全国規模のトーナメントに参加することなどによって、県支部も力をつけてどんどん一人歩きができるようになってきました。フェデレーションカップや朝日レディースに協力した事などにより日本テニス協会60周年記念式で日本学生テニス連盟と並ぶ連盟として認められました。会員が増えるに従って、規約等も見直され、スムーズな運営をめざし役員も新しい人の参加を得て、合理的な組織になりつつあると思っています。

司会 新しい支部長として伊波さんを迎え、テニス講習会、審判講習会などが始められましたが、いかがでしょうか。

伊波 まず審判の方ですが、女子テニスのレベルを高くするために、ルールを守ること、マナ

ーを良くすることの必要性を考え、各クラブで指導的立場にある女子連の人達を中心に講習会をやり、広報でニュースを末端まで流すことによって効果をあげる事にしました。宮城静代さんにマナーを主に講習をお願いし、各クラブ1名以上出席とし、3ブロックに分けて年1回づつ2年間行ないました。中川暢行氏に審判指導も加えて1回お願いし、今年も私がペーパーテストなどを工夫して行ないました。セルフジャッジ中心の試合が多くなり、ルール、マナーに関心を持つ人が増えてきて、よくなりつつあることを喜んでいます。

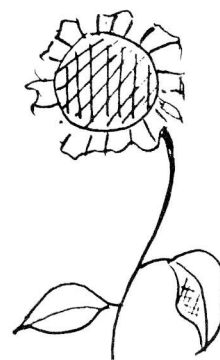
テニス講習会については、テレビなどでおなじみの本井満氏という立派な指導者を得て、まずラケットの正しい振り方を見ていただきたいと思って始めました。56年から今年で4回目を迎えました。本井さんが神奈川はレベルが高くてもう教える事がないとおっしゃいましたとか。

司会 規約の改正についてご説明願います。

飯尾 ブロックに分かれたことにより生まれしました。先任者からの下案があり、それを引き継ぐ形で整備していきました。テニスもどんどん変わってゆく中でテニスブームで会員数も増え、より大きな組織を必要とする気配を感じていました。明確なお金の管理と人事が大切という事で、事務と決定機関をはっきりと分ける事、役員の人数も多くなるので、半数を残し、2年毎に交代していく事を柱にしました。行事も増えていろんな事態に対応するために、時に応じて小委員会を作り、機動的な働きをしています。新しい名簿を作るにあたり、無制限だった休会を3年を限度にしました。

司会 コカ・コーラとのかかわりあいについて。

白石 4回のコカ・コーラ杯から女子連がかかわってきました。10万円の協賛費をいただく事で行なっていますが、どんどん増えていく方向にあり、女子連としては企業のトーナメントに振り回される様なことにはなりたくないと思っております。



伊波 その他韓国選手との交流もありました。桑名杯も全国規模のものに発展していくようです。支部の皆様には、女子連主催のものとして桑名杯トーナメント(初級)。ブロック別トーナメント単・複。上級トーナメント単・複。武石杯トーナメントが揃いました。十分楽しんで参加して下さい。

司会 先輩からメッセージを一言ずつお願いいたします。

武石 第一に家庭、第二にテニス、主婦のテニスであることをお忘れなく。

近藤 御主人、御子様を大切に。あまり夢中になり過ぎないように。

大塚 先輩の方々積みあげてこられた伝統を大切にして下さい。

白石 家庭とテニスを両立される事こそ大切です。何か一つの事に打ち込んで生きる姿勢は美しいです。

間宮 テニスが終わった時、何かもう一つの自分のものが残るように。長い老後も待っていますよ。

飯尾 女子連主催のトーナメントをより良いものにする為に、参加者、主催者の努力が欲しいと思います。

伊波 役員はボランティアというイメージを脱していかなければならないと思います。若い方の時間の使い方、エネルギーの配分のうまさに感心しています。

草生 役員を経験する事で自己の向上のためにとっても勉強になりました。新しい方、若い方にどんどん参加していただきたいと思います。

(※ S.59年10月、青砥にて集録)



さすがテニスで鍛えた姿、ミセスとは思えません。



あこがれの講師に緊張ざみ



何もかも会員の手づくりで



苦心の作です。係の方ご苦労さまでした。



いつもお元気な武石さんの
心なごむお話